

おはようございます。



止めましょう！
テロも戦争も
日本共産党北区議会議員
さがらとしこ
区政レポート
日本共産党議員団
2017.5.9.No.1478
御相談はお気軽に
TEL/FAX とも 3905-0970
さがらとしこ事務所
赤羽北3-23-17
(バス停「赤羽北3丁目」・メガンティ近く)

憲法施行70周年 豊洲移転きはり中止 福祉・暮らしを守る都政に 5.3赤羽西口駅前演説



▲9人の区議団と訴えるそねはじめ都議 (5月3日赤羽駅西口)

そねはじめ 日本共産党と他党との違い

	豊洲移転	道路計画 (特定整備路線)	福祉・都政改革
日本共産党	移転中止・築地再整備へ 豊洲は汚染土壌除去できず。市場移転は「想定し得ない」とした農水省・政府方針にも反する	道路計画は見直し・撤回 住民を追い出し、商店街をこわす86号線(志茂・赤羽西)、73-85号線(十条)、81号線(田端)計画の見直し、撤回を求める	福祉暮らし最優先の都政に 国保料の減免、認可保育園増設、シルバーパスの負担軽減など。政務活動費の公開、費用弁償は廃止を実現
自民党	豊洲への早期移転 「豊洲市場の安全は証明された」と主張。「築地も汚染されている」と攻撃し、築地女将(おかみ)さんの会が「営業妨害」と怒りの声	早期に事業化推進 「区内未整備都市計画道路の整備推進(都議HP)」を掲げ、特定整備路線を含む大型道路建設を推進	福祉をおしつぶしてきた「巨大開発病」 都の民生費(福祉費)は16年間(1998年~2014年)で全国3位から35位に転落
公明党	豊洲移転推進 「豊洲移転に向け、着実かつ確実な前進」を要求。無謀な豊洲移転を推進してきた責任には類かもり	道路計画推進 太田国交大臣(当時)が区内の特定整備路線すべてを認可。区議会では計画見直しを求める住民に対し「反対派がこめいしている」などと攻撃	歴代知事提案にすべて賛成 老人福祉費は上記の16年間に全国2位から43位に。知事、自民と一緒に都政のゆがみをつくりだしてきた
都民ファースト	態度を明らかにせず 「個人的には築地残留は難しい(本人・テレビ討論番組で)」	道路計画は必要・妥当 「高齢者向けの福祉にお金を注ぎ込んでも、形として残りません。道路やインフラなら投資として次世代に引き継ぐことができます(本人ブログ)」	シルバーパスは廃止すべき 「経済効果が不透明。シルバーパスは人気取りの「パラマキ政策」(本人ブログ)」



くらしのなんでも相談
区議 さがらとしこ事務所
Tel/Fax 3905-0970
①ルスの時は、お名前と電話番号を
ルステンに。

都営 家族向け 単身の方向
住宅 (若年ファミリー定期使用住宅)
▶申込書の西暦市は、5月16日まで
申込の受け付けは、5月19日までに
茨谷郵便局必着です。

安倍首相の9条改憲発言
無制限に海外派兵の道

①5月3日、改憲派の集会によせたメッセージ、安倍首相は「自衛隊が憲法かもしれないなどの議論の余地をなくす」と、憲法9条の「1項、2項は残しつつ、自衛隊を明文で書き込む」、「新憲法を2020年に施行したい」と発言しました。
②これは、憲法違反の行儀ではないでしょうか。自衛隊をいつでも、どこでも、無制限に使い、武力行使できるようにするための改憲ではありませんか。それはまさに、米国のトランプ政権の求めに応じてのものではないのか。米国から押しつけられる安倍首相が、

日本共産党演説会

5月20日(土)午後2時~ 赤羽会館講堂
第2会場4階大ホール
大型スクリーンで同時中継します



★入場無料
★保育室・手話通訳あります





なかの こういち 1970年生まれ。政治学。主な著書に『つながり、変える、私たちの立憲政治』『右傾化する保守政治』など。

憲法施行70年について職者に聞くインタビュー
一。3人目は中野晃一・上智大学国際教養学部教授です。(中野 晃一、中川 亮)

もともと戦後の歴史は9条をめぐる護憲対改憲の対決軸が専断保守の根本で、いま市民連合が掲げるような「立憲対非立憲」は戦前のものどころではありません。
9条と平和主義 正面から言えず
2012年末に安倍政権が復活し、改憲手続きを緩和する96条改憲や、野党時代に作ったおぼましい「自民党改憲草案」のような、立憲主義にのっとり憲法全体をつぶしてしまう動きが出てきました。その中でも、「立憲主義を守る」というところまで下がって運動を構築しなくては、という認識を強めました。
それは、改憲手続きを緩めるような改憲のやり方や、その後

の解釈改憲・安保法制に見られた動きに対し、小林節さん(憲法学者)のような改憲派の方も含め「立憲主義」で大同団結をはかる。そうやって運動を組織することを、学友仲間とも相談した結果でした。
他方、正直言って内心、じくじたるものもあった。改憲勢力に差し込まれ、そのまま下から受け入れられないのか、という思いが強かった。いわば立憲主義「憲法に基づく政治」という形式論で、正面からも9条と平和主義を守れ、と言えないことに、悔しい思いや憤慨もあったのです。なぜなら「立憲主義」という共通項の中では、「政府による恣意的な解釈改憲がない」だけ、将来は9条を委ねる、という人とも一緒に運動することにもなるわけです。

「憲法は俺の言葉なんだ」
2017.5.5.付
憲法施行70年
インタビューお

「憲法は俺の言葉なんだ」
2017.5.5.付
憲法施行70年
インタビューお

70年の積み重ねに未来がある

ところがその後、市民的な共同体制が広がる中で、9条と平和主義への共感も運動の柱になっていきました。
立憲主義背負う 個人が発現した
共同体制の構築という点でも重要だったのは、2014年に集団的自衛権行使容認の閣議決定が強行されたあと、同12月に総がかり行動実行委員会ができたことです。共産党に近い労働運動の人たち、連合・平和フォーラム、そして首都圏を中心とする超党派市民運動の人たちが、過去のいきさつを超えて大同団結を果たし、共通の「場」をつくった。そこには、動員されるのではなく一人ひとりが立憲主義を背負い、「自分たちが民主主義だ」と口にしている個人が発現しました。
その団結をつくったのは、危機感の深まりの中で、運動のリーダーとその参加者たちが示した決意と勇気でした。過去の経緯を乗り越え手を結んでも、人が集まるのかというリスクもあった。それでも意見を真にする人たちの間で、互いをリスペクトすることで運動を広げるという勇気が、さらに広い参加者に勇気を与えたのです。
そのとき私が驚いたのは、1991年の湾岸戦争以来、自衛隊を海外に出さないのは自衛中心的なところから「二国平和主義」論が大手を振る時代、それ

にあらがって9条と平和主義を訴えてきた人たち、第1次安倍政権の改憲の企てを押しとどめた「9条の会」のような人たちの運動が、地下水脈のように若い世代に流れて行ったと分かったことです。
一人ひとりの個人が自分の名前を立て、そこに来れない人たちの「個人の尊厳」を守るために立ち上がったとき、彼らは立憲主義を体現するだけでなく「9条守れ」と叫んで平和主義をも体現したので。その中で、非戦を訴えることが恥ずかしいことであるかのような空気が変わった。それが2015年安保闘争の大きな成果だと思います。
その後も、安倍政権による「戦争する国」づくりの攻撃は続いています。それに対し、9条の価値を守り直そうという市民と立憲野党の連帯は、単に立憲主義だけでなく、平和主義を掌々と語る時代への大きな転換をもたらしていると思います。

「前文は俺の言葉なんだ」
2017.5.5.付
憲法施行70年
インタビューお

「出自興味ない」
若い世代の宣言
憲法の人権規定は、過去・現在・将来の国民に保障されるものです。人類の歩みの中での英知が、凝縮・リソトされ、さまざまな具体的な憲法になるのが立憲主義です。たまたま、戦後改革の過程でGHQ(連合国軍総司令部)が憲法制定に関わ

ったのは、人類の歩みという視点で見れば二次的な問題です。
その憲法を、今の権力者が「押し付けられた」として嫌がるのは、権力を制限する憲法が憲法としての役割を果たしていることを示すものです。
2015年の安保闘争の中で、シルズの若者が、憲法の前文を読み上げ、「これは俺の言葉なんだ」と叫んだ。そのとき僕は、「それだ」と思いました。
新しい憲法のもとで70年間の日本国民の営みがありました。それは憲法を暮らしに生かすための試行錯誤の連続でした。25条も9条も、完全に丸に守れているかといったら、それに向かう努力がある一方で、その努力が押し戻されることの繰り返しでした。それが立憲主義の現実の姿です。
押し付けられて嫌がっている人へ、押し付けようとする人民の意志がせめぎ合っているのが、常に憲法の現実です。
その中で、まったく新しい世代がこの憲法の前文は、これは俺の言葉なんだという。日本国憲法を血肉として、その出自うんぬんかんぬんという議論ははっきりいって興味がないという「宣言」が若い世代から出てきた。これは日本国憲法70年の、非常に重要な現実であり、そこにやっぱり未来があると思うのです。

「憲法は俺の言葉なんだ」
2017.5.5.付
憲法施行70年
インタビューお

「憲法は俺の言葉なんだ」
2017.5.5.付
憲法施行70年
インタビューお

「憲法は俺の言葉なんだ」
2017.5.5.付
憲法施行70年
インタビューお

「憲法は俺の言葉なんだ」
2017.5.5.付
憲法施行70年
インタビューお